

鯉のぼり

子供の日が近づいてまいりましたので、構内休憩所に小さいのですが鯉のぼりを立てました。クリスマス同様に小さな子たちが喜んでくれたらと、願いを込め飾り付けをいたしました。



「江戸っ子は皐月の鯉の吹流し」と言われるように、こいのぼりは「幟(のぼり)」とは名づけられているものの、形状は魚を模した吹流し形です。

そもそも、こいのぼりは門松や雛人形と同じく、

江戸時代中期の裕福な庶民の家庭で始まった習慣でした。

端午の節句には厄払いに菖蒲を用いることから、別名「菖蒲の節句」と呼ばれ、武家では菖蒲と「尚武」と結びつけて男児の立身出世・武運長久を祈る年中行事となりました。この日武士の家庭では、虫干しをかねて先祖伝来の鎧や兜を奥座敷に、玄関には旗指物(のぼり)を飾り、家長が子供達に訓示を垂れました。

立夏

ようやく暖房器具を必要としないくらいの気候になりました。

5月5日は立夏にあたります。

立夏は夏が始まる日です。この時期は大地が草で覆われ木々が繁ってきます。カレンダーには「夏が立つ」などと記載されている場合もあります。これは、簡単に言うと「夏がきたよ」という意味です。

立夏の頃(ちょうどGW[ゴールデンウィーク]頃ですね)は気持ちの良い風が吹き、晴天が続くので外に出ることが楽しみな時期でもあります。

大型連休に入り、お出かけされている方もたくさんいらっしゃるかと思います。

昼間の日向は初夏を思わせる暖かさで、晴れた空が気持ち良いです。

入口の猫地蔵に小さな鯉のぼりを添えました。時折吹く風になびいております。



藤の花

桜の花の時期が過ぎ今年はいつもの年より2週間ほど花の咲く時期が早いと感じました。

例年なら5月の連休中に咲くハナミズキやポピーが

4月初頭には花の列をなし御成街道は初夏の風景となっております。

沿道の背の高い木から藤の花の大群が

淡い紫の滝となり風に揺られております

